

「内航海運研究会」との意見交換会開催

7月下旬に、「内航海運研究会」事務局長の田中 康仁氏（流通科学大学教授）より、当組合 原田 勝弘 理事長へメンバー（石黒 一彦会長他7名）との意見交換会の申し込みがあり、理事長が快諾され、下記のとおり開催した。

記

日 時：令和5年8月30日(水) 14:00～16:00

場 所：鹿児島市東千石町2-1 芙蓉海運(株)6階会議室

出席者：鹿児島内航海運組合 理事長 原田 勝弘

(芙蓉海運(株) 代表取締役社長)

// 理 事 飯澤 佳苗

(芙蓉物流(株) 取締役)

// 事務局長 池端 洋一

国土交通省九州運輸局鹿児島運輸支局 支局長 野元 雅幸

内航海運研究会

会長 石黒 一彦 神戸大学海事科学部准教授

竹本 七海 関西大学大学院生

永岩 健一郎 鹿児島工業高等専門学校教授

畑本 郁彦 日本内航海運組合総連合会企画調査部長

松尾 俊彦 大阪商業大学総合経営学部教授

松田 琢磨 拓殖大学商学部教授

森 隆行 流通科学大学名誉教授

事務局長 田中 康仁 流通科学大学商学部教授

概 要

原田理事長及び石黒会長挨拶の後、資料を基に当組合の現況を説明し、その後、船員不足問題や、「船員の働き方改革」に伴う労務管理制度の現場における現状について、委員からの質問に飯澤理事が同社の実情等を踏まえ、同制度は陸上側に負担がかかる旨の説明があった。

委員からは、労務管理のデジタル化対応において、労務管理システムの導入等は個人船主には、費用等の面で厳しいかと思われるので、国もしくは業界団体の支援制度が必要ではとの提案があった。

また、原田理事長からは、同社の船員雇用において、自衛隊退職者の採用を積極的に実施していることに対し、委員の方々は興味を示されていた。

さらに、原田理事長から、現在は船員の売り手市場となっており、同社では「船員の働き方改革」に伴う労働時間管理のため、従来の3ヶ月乗船1ヶ月休暇の周期を早めている旨の説明があり、これに関し、野元鹿児島運輸支局長からは、現在の失業保険受給者が一桁で受給後も早期に乗船することや、新規船員手帳の発給数も年々減少傾向にあるとの報告があった。

委員からは、女性船員採用等についての質問等があったが、当組合員事業者は小型船が多く、厳しい状況である旨、説明した。

その他にも、新船建造等に対する質問があり、原田理事長がオーナーとして、船員不足や船価等の高騰もあり厳しいと回答されていた。

2時間があったという間に過ぎ、時間の関係もあり終了となったが、有意義な意見交換会となったと思われる。



現状説明される原田理事長(正面席左)と野元支局長(正面右)
左側奥から手前に、飯澤理事、畑本委員、竹本委員、永岩委員



石黒会長(正面右)と森委員(書面左)他メンバー
左側奥から手前に、松尾委員、松田委員、田中事務局長